

### 3 花 き

項 目	作 業 内 容
<p>(1) デルフィニウムの栽培管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)            デルフィニウムの栽培管理            シクラメンの育苗管理            7～8月出荷用トルコギキョウの育苗</p> <p>2月の生育ステージは、二番花の発蕾～採花期と定植時期や管理によって異なるので、ステージ毎に以下の栽培管理に注意する。</p> <p>ア 採花期の作型</p> <p>(ア) 水、施肥管理            二番花の開花期となる作型では、花穂の徒長、軟弱化を防ぐために、かん水量は抑え気味にする。ただし、過度の土壤乾燥は三番芽の萌芽、伸長を抑制するので、肥料分が吸収できる程度の土壤水分量が保てる様に少量多回数かん水を心がける。</p> <p>また、採花後の株は吸肥力が低下し、低温期でもあることから追肥は通常より控えめとし、有機配合肥料を2～3週間おきに窒素成分で3～4 kg/10a 施用する。</p> <p>(イ) 温度管理            日中は換気目標温度を通常の25 から20 程度まで落とし、側窓換気によりハウス内のむれをなくすことで堅くしまった切り花に仕上げる。日中の温度が上がらない場合には、循環扇や暖房機の送風を稼働させて空気の対流を図る。また、最低夜温は、次の三番芽の萌芽を促すために12 ～14 を確保する。</p> <p>イ 発蕾～花穂伸長期の作型            二番花の出蕾期からは、次の三番芽の分化を促進するために葉かぎを段階的に実施し、株元</p> <div data-bbox="735 1491 1382 1946" data-label="Image"> </div> <p>写真1 葉かぎをした株元の状態</p>

項 目	作 業 内 容
<p>(2) シクラメンの育苗管理</p>	<p>に光を当てるようにする。特に二番花以降の生育期は、立ち本数が多くなり過繁茂となるため、ハウス内の通気性の改善や灰色かび病等の病気を予防するために的確に実施する必要がある(写真1)。</p> <p>水、施肥、温度管理等は、1月の作業内容に準じて行う。</p> <p>12月にセルトレイに播種した中鉢(5号鉢)生産用のシクラメンは、30~40日後の1月に発芽を開始し、70日後の2月には本葉の展開を開始する。</p> <p>施肥管理は、窒素：リン酸：カリ比で2：1：2に調整した液肥を、窒素成分で50ppm程度の濃度に薄め、1週間に1回程度施用する。幼苗期に濃度の高い液肥を施用すると、本葉の展開が速く葉色も濃くなるが、その後の生育が阻害され奇形葉の発生が多くなるので注意する。この時期は本葉がゆっくりと展開するような肥培管理が重要である。温度管理は、最低夜温を15程度とし、昼温は25で換気する。</p> <p>また、ミニシクラメンの生産では、2月上旬が播種適期となるため、5号鉢生産と同様の播種・育苗管理を行う(12月の作業管理を参照)。</p>
<p>(3) 7~8月出荷用トルコギキョウの育苗</p>	<p>ア 播種用土の準備</p> <p>播種用土は保水性、排水性の良い無病な市販の専用用土を利用し、育苗専用の緩効性肥料(マイクロロングトータル)を用土1・当たり5g混合しておくで育苗中の液肥管理の省力化が図れる。</p> <p>イ 播種及び播種後の管理</p> <p>播種は、288穴のセルトレイに市販のコーティング種子を1~2粒ずつ落とす。トルコギキョウは好光性種子で発芽には光が必要なため覆土はせず、播種後はできるだけ早く噴霧</p>



写真2 本葉の展開を開始したセル苗

項 目	作 業 内 容
	<p>器を用いて種子のコーティングが溶けるまで噴霧する。吸水させたコーティング種子を再度乾燥させると溶けにくくなり、発芽不良の原因となるので注意する。</p> <p>発芽適温は25 前後と高温で、無加温施設内では温度不足による発芽遅延や発芽の不ぞろいが問題となるため、ビニルトンネルの被覆や電熱温床線を設置し、発芽まで適温を確保する必要がある。なお、発芽後は20 前後で管理する。</p> <p>かん水方法は、播種後から本葉展開時までは用土の表面を乾かさないように管理し、この時期までは植物体が小さいので噴霧かん水とする。その後は通常のかん水方法で、表面が乾き気味になると行うようにする。また育苗後半には肥料切れを起こす場合があるので、葉色を見て薄めの液肥を施用する。なお、降雨日が多く日照時間が短くなると軟弱な生育となり苗立枯病等の発生を助長するため、ハウスの換気や水管理に注意する。</p>

(作成 農林水産研究所)